

建築主：株式会社竹中工務店
 設計：株式会社竹中工務店
 施工：株式会社竹中工務店
 所在地：印西市大塚1-5-1

多義的な環境配慮技術の実証実験棟

竹中技術研究所・耐火実験棟



季節と時の移ろいを映すファサード(南外観)

千葉ニュータウン内に立地する白い技術研究所は、本賞第一回目の平成6年度に景観に配慮した一般建築の部で建築文化賞に輝いた。その後の16年間におよぶ維持管理の状況も出色だが、今回審査の対象となった耐火実験棟は、美しい円形ジオメトリーの配置が際立つ技術研究所の一角に建てられた。その特徴である「サステナブルフレーム」を纏った立ち姿は、従来の低層の研究所の雰囲気とはずいぶん異にしている。現段階で第一級の耐火実験施設だが、そこに大手ゼネコンとして近年とみに加速している建築の環境問題に取り組む姿勢を実体化した。

まず、最新の耐火実験装置によって得られる知見は、耐久性やリスクマネジメントを通じた建築のサステナビリティに資する技術の開発に貢献する。また、この実験棟自体の中間領域をシステムティックに構成するサステナブルフレームが本施設のサステナビリティを構成する。その考え方自体は、決して新しいものではなく、そこで謳われている12の実証項目にしても、



鳥瞰写真

「パッシブデザイン」の要素として基本的なもの(アクティブなシステムを組み合わされた、太陽光発電、風力発電、緑化外装、環境配慮建築材料、ミスト噴霧、排熱利用に分類)ばかりである。しかし、比較的限定的な効果のものを含めて、その組み合わせや統合化によって、単なる省エネルギーにとどまらない、快適さや美しさにつながる効果の可能性を重視して構成されている。

これは一民間企業の実験棟であるが、実証実験の成果を課題も合わせて、ぜひ広く公開されることを願うものである。(岩村和夫)



環境配慮型の革新的な緑化外壁システム

(撮影/小川泰祐)